



なければなりません。

（１）いかなる理由でも差別されない権利

（２）子どもに 関係のあることが決められ、行 われるときは、子どもにとって 最 もよいことが何

かを 考 えられる権利

（３）生きる権利と 成 長 ・ 発 達する権利

（４）自分に 関係のあることについて、自由に自分の意見や思いを表 明 する権利

（自分らしくいられる権利）

第 5 条 子どもは、自分らしくいられます。そのためには、主 に次に掲げる権利が保 障され

なければなりません。

（１）自分らしくいられ、個性が 尊 重 される権利

（２）公 正に 評 価される権利

（豊 かに過 ぐす権利）

第 6 条 子どもは、様 々 な経 験を通して、自分を豊 かに 成 長 ・ 発 達させることができ

ます。そのためには、主 に次に掲げる権利が保 障されなければなりません。

（１）今も将 来も豊 かに生きることができる権利

（２）自分のやりたいことを 追 求 できる権利

（３）思い切り遊び、自分にとって 楽しいことをする権利

（４）自分が知りたい情 報を得られる権利

（５）心 や身体が疲 れた時に休 息することができる権利

（社 会 から守られ、支援を受ける権利）

第 7 条 子どもは、安 心して過 ぐすため、社 会 から守られ、支援を受けることができます。

そのためには、主 に次に掲げる権利が保 障されなければなりません。

（１）安 全で安 心して生きることができる権利

（２）健 康に暮らせる権利

（３）生 活 環 境と自然 環 境 が守られる権利

（自分で自分のことを決める権利）

第 8 条 子どもは、自分に関することを自分で決めることができます。そのためには、主 に次

に掲げる権利が保 障されなければなりません。

（１）自分で選 択して自由に自己決 定 できる権利

（２）自分らしく学び、成 長 ・ 発 達 できる権利

（３）様 々なことに 挑 戦して失 敗 できる権利

（意見を表 明 し、参加・参 画 する権利）

第 9 条 子どもは、自分の意見や思いを表 明 し、自分に関わることに参加・参 画 するこ

とができます。そのためには、主 に次に掲げる権利が保 障されなければなりません。

（１）意見や思いを様 々な方法で 表 すことができる権利

（２）対話をして協 働 する権利

ちいき さんかく けんり

（３）地域に参 画 する権利

第 3 章 子ども・子 育てを 支 え合う地域づくり

（保護者の役 割 など）

第 10 条 保護者は、子どもの権利を守るため、子どもにとって 最 もよいことを第 一に 考 え、

子どもの意見を聴き、その実 現に向けて子どもに寄り添い、成 長 ・ 発 達を 支 え、子どもの

身近な安 全基地となる大 切な役 割を担います。

2 保護者は、子どものための思い、良かれと 思 っていることが、子どもの意思に反 していたり、

子どもとともに 考 えます。

3 保護者自身も安 心して、自分らしく、幸 福であることが大 切です。保護者は地域で子 育て

を 支 えられ、必 要 な支援を受ける権利が保 障されます。

（学 校、子どもに関わる施設・子どもに関わる団 体・子どもに関わる事 業 者 の責務）

第 11 条 学 校、子どもに関わる施設・子どもに関わる団 体・子どもに関わる事 業 者 は、

子どもが人 間 性を豊 かにし、将 来 への可能性を開いていけるよう、子どもの主 体 性を

尊 重 し、子どもの権利を保 障する責務があります。

2 学 校、子どもに関わる施設・子どもに関わる団 体・子どもに関わる事 業 者 は、子どもの

3 子どもに関わる事 業 者 は、その雇用する労 働 者が子 育てをしやすい環 境を整備する

とともに、地域の子どもが自分らしく、豊 かに 育 つことができるよう配 慮しながら事 業 活 動

を 行 う責務があります。

（区民・団 体・事 業 者 の役 割 ）

第 12 条 区民・団 体・事 業 者 は、地域の中で、子どもと子 育てをしている家庭を見守り、

とともに住みやすい地域をつくっていくという意識をもち、子どもの権利が保 障された地域づく

りを担います。

2 事 業 者 は、その雇用する労 働 者が子 育てをしやすい環 境の整備に努めるとともに、

その事 業 活 動が子どもの権利の保 障につながるよう、配 慮に努めなければなりません。

（区の責務）

第 13 条 区は、子どもの権利を保 障するための政 策を総 合 的に実施する責務があります。

2 区は、子どもについての政 策を実施するときは、保護者、学 校、子どもに関わる施設・子ど

子どもへの支援を展 開 します。

（地域の中で 支 える子どもにやさしいまちづくり）

第 14 条 区や子どもを 含 むすべての区民は、地域の中 で 支 える子どもにやさしいまちの

な取 組を 行 います。

第 4 章 基本となる 政 策

（子どもが参加・参 画 できる機会の確保と意見や思いの 尊 重 ）

第 15 条 区は、様 々 な場 面や機会で、子どもの多様な意見や思いを受けとめ、対話しながら、

子どもとともに子どもの権利を 実 現 します。

2 区は、子どもが主 体 となって、安 心して意見 表 明 をすることができる会議を実施すると

ともに、会議以外の意見 表 明 の場も確保し、子どもが地域社 会 の主 体 となって参加・

参 画 することができる仕組みづくりに努めていきます。

3 区は、様 々 な工夫のもとで、意見 表 明 が苦手な子どもや意見 表 明 の場があってもなか

な意見 表 明 ができない子どもの声聴き、乳 幼 児など意見 表 明 の手 段が限 定され

る子どもの思いを受けとめ、子どもの意見を 尊 重 するよう努めていきます。

4 区は、子どもの意見や思いを大 切に受けとめて、その意見や思いの実 現 などについて

検 討した結果と、その理由について子どもに 伝 えていくよう努めていきます。

（子どもの居場所づくり）

第 16 条 区は、子どもが必 要 と 考 える、多様な居場所づくりと居場所の質 の確保に努めて

いきます。

2 区は、子どもが居心地よく安 心して過 ぐすことができることに加 え、子どもとの対話を重ね

ながら、次の複 数の要素を取り入れた子どもの居場所を 実 現するよう努めていきます。

（１）子どもの権利の視点から、自由があり自分らしくいられること。

（２）場の一 員である実 感もて、意思を伝 えようと思 え、伝えた意見が受けとめられたと 感

じられること。

（３）自分のことを自分で決められること。

3 学 校、子どもに関わる施設・子どもに関わる団 体・子どもに関わる事 業 者 は、連 携

を強 化することで、子どもが多様なコミュニティの中 でのびやかに 育 つことができ、安 心して

過 ぐすことができる居心地のよい 環 境の整備に努めていきます。

（虐 待 の予防など）

第 17 条 誰であっても、子どもを虐 待 してはなりません。

2 区は、虐 待を予防するため、学 校、子どもに関わる施設・子どもに関わる団 体・子ども

に 関わる事 業 者などと連 絡をとり、協 力 しながら、子 育てをしている家庭に対し、

必 要なことを 行 うよう努めていきます。

3 区は、虐 待を早期に発 見し、子どもの 命 と 安 全を守るため、児童相 談 所と子ども

家庭支援センターとの 強 力 な連 携のもと、子どもや子 育てをしている家庭に 対する適 切

よう努めていくとともに、学 校、子どもに関わる施設・子どもに関わる団 体・子どもに関わ

る事 業 者などと連 絡をとり、協 力 しながら、虐 待 の予防に努めていきます。

（いじめや差別の予防など）

第 18 条 誰であっても、いじめられたり、差別されたりすることなく安 心して過 ぐすことがで

きる権利があります。

2 区は、いじめや差別を予防するため、すべての区民に 必 要 な理解が広 まるための普 及

啓 発を推 進し、未然防止や早期発 見に努めていくとともに、いじめや差別があつたときに、

速やかに解 決 するため、保護者や学 校、子どもに関わる施設・子どもに関わる団 体・子ど

にもか かわる 事 業 者 などと 連 絡 をとり、 協 力 する など 必 要 な 仕 組 み を 作 る よう 努 め て

い きます。  
( 貧 困 などの 対 策 )

第19 条 誰 であ っ て も、 貧 困 などに 関 連 する 生 ま れ や 育 っ た 環 境 などにか かわ ら ず、

安 心 し て 育 つ こ と が で き る 権 利 が あ り ま す。

2 区は、 貧 困 などの 防 止 と 解 消 に 向 け て、 子 ども の 現 在 と 将 来 が そ の 生 ま れ や 育 っ た 環 境 に 左 右 さ れ る こ と が な い よう、 す べ て の 子 ども が 自 分 ら し く 豊 か に 育 つ こ と が で き る

環 境 の 整 備 に 努 め て い きます。

( 健 康 と 環 境 づ くり )

第20 条 区は、 子 ども の 健 康 を 保 持 し、 増 進 し て い く と と も に、 子 ども が 自 分 ら し く 豊 か に

育 っ た た め の 安 全 で 良 好 な 環 境 を 整 備 す る よう 努 め て い きます。

( 子 ども の 権 利 学 習 の 支 援 )

第21 条 区は、 子 ども が 子 ども の 権 利 に つ い て 学 習 す る た め の 支 援 に 努 め て い きます。

2 区は、 子 ども に 関 わ る 大 人 が 子 ども の 権 利 に つ い て 理 解 し、 子 ども に 教 え る こ と が で き る よう

に な る た め の 支 援 に 努 め て い きます。

( 子 育 て 支 援 ネットワーク の 形 成 )

第22 条 区は、 子 ども の 育 ち や 子 育 て を、 子 ども や 保 護 者 個 人 の 責 任 と は せ ず、 地 域 社 会

全 体 で と も に 支 え 合 い、 子 ども 一 人 ひと り の 権 利 が 保 障 さ れ る 地 域 づ くり を 推 進 し て い きます。

2 区は、 多 様 な 主 体 に よ る 子 育 て 支 援 ネットワーク の 形 成 に お け る、 中 心 的 な 役 割 を

担 い ま す。

( 人 材 育 成 )

第23 条 区は、 子 ども の 意 見 形 成 や 意 見 表 明 を 支 援 す る た め、 必 要 な 人 材 育 成 に 努

め て い きます。

2 区は、 子 ども の 意 見 形 成 や 意 見 表 明 を 支 援 す る 人 材 を 継 続 的 に 育 成 す る と と も に、

支 援 を 受 け た 子 ども が 次 の 担 い 手 と な る 循 環 が 生 ま れ る 環 境 の 整 備 に 努 め て い きます。

( 普 及 啓 発 )

第24 条 区は、 こ の 条 例 の 存 在 と 理 念 に つ い て、 す べ て の 区 民 に 理 解 し て も ら う よう 努 め

て い きます。

2 区は、 様 々 な 工 夫 を し な が ら、 乳 幼 児 を 含 め た 子 ども に 対 し て だ け で な く、 大 人 に 対 し

て も、 こ の 条 例 の 普 及 啓 発 を 実 施 し て い きます。

3 区や 大 人 は、 子 ども が 自 分 ら し く 生 き て い く こ と が で き る 社 会 に お い て、 自 ら 考 え 責 任

ある 生 活 を 送 る た め に、 自 分 自 身 に 子 ども の 権 利 が あ る こ と や、 お 互 い を 認 め 合 い 尊 重 す

る こ と の 大 切 さ を 伝 え て い きます。

4 区 民 が 子 ども の 権 利 に つ い て 理 解 と 関 心 を 深 め る こ と が で き る よう、 子 ども の 権 利 条 約

が 国 際 連 合 で 採 択 さ れ た 11 月 20 日 を、「 世 田 谷 区 子 ども の 権 利 の 日 」 と し て 定 め ま す。

第 5 章 子 ども の 権 利 擁 護

( 世 田 谷 区 子 ども の 権 利 擁 護 委 員 の 設 置 )

第25 条 区は、 子 ども の 権 利 を 擁 護 し、 子 ども の 権 利 の 侵 害 を 速 や か に 取 り 除 く こ と を

目 的 と し て、 区 長 と 教 育 委 員 会 の 附 属 機 関 と し て 世 田 谷 区 子 ども の 権 利 擁 護 委 員 ( 以 下

「 擁 護 委 員 」 と い い ま す。 ) を 設 置 し ま す。

2 擁 護 委 員 は、 5 人 以 内 と し ま す。

3 擁 護 委 員 は、 人 格 が 優 れ、 子 ども の 権 利 に つ い て 見 識 の あ る 人 の う ち か ら 区 長 と 教 育

委 員 会 が 委 嘱 し ま す。

4 擁 護 委 員 の 任 期 は 3 年 と し ま す。 た だ し、 再 任 す る こ と が で き る も の と し ま す。

5 区 長 と 教 育 委 員 会 は、 擁 護 委 員 が 心 身 の 故 障 に よ り そ の 仕 事 が で き な い と 判 断 し

た と き や、 擁 護 委 員 と し て ふ さ わ し く な い 行 い が あ る と 判 断 し た と き は、 そ の 職 を 解 く こ と

が で き ま す。

( 擁 護 委 員 の 仕 事 )

第26 条 擁 護 委 員 は、 次 の 仕 事 を 行 い ま す。

( 1 ) 子 ども の 権 利 の 侵 害 に つ い て の 相 談 に 応 じ、 必 要 な 助 言 や 支 援 を す る こ と。

( 2 ) 子 ども の 権 利 の 侵 害 に つ い て の 調 査 を す る こ と。

( 3 ) 子 ども の 権 利 の 侵 害 を 取 り 除 く た め の 調 整 や 要 請 を す る こ と。

( 4 ) 子 ども の 権 利 の 侵 害 を 防 ぐ た め の 意 見 を 述 べ る こ と。

( 5 ) 子 ども の 権 利 の 侵 害 を 取 り 除 く た め の 要 請、 子 ども の 権 利 の 侵 害 を 防 ぐ た め の 意 見 な ど

の 内 容 を 公 表 す る こ と。

( 6 ) 子 ども の 権 利 の 侵 害 を 防 ぐ た め の 見 守 り な ど の 支 援 を す る こ と。

( 7 ) 活 動 の 報 告 を し、 そ の 内 容 を 公 表 す る こ と。

( 8 ) 子 ども の 権 利 の 擁 護 に つ い て の 必 要 な 理 解 を 広 め る こ と。

( 擁 護 委 員 の 務 め な ど )

第27 条 擁 護 委 員 は、 子 ども の 権 利 を 擁 護 し、 子 ども の 権 利 の 侵 害 を 取 り 除 く た め、 区 長、

教 育 委 員 会、 保 護 者、 区 民、 事 業 者 な ど ( 以 下 「 関 係 機 関 な ど 」 と い い ま す。 ) と 連 絡

を と り、 協 力 し な が ら、 公 正 か つ 中 立 に 仕 事 を し な け れ ば な り ま せ ん。

2 擁 護 委 員 は、 そ の 地 位 を 政 党 や 政 治 的 目 的 た め に 利 用 し て は な り ま せ ん。

3 擁 護 委 員 は、 仕 事 を す る 上 で 知 っ た 他 人 の 秘 密 を 漏 ら し て は な り ま せ ん。 擁 護 委 員 を 辞 め

た 後 も 同 様 と し ま す。

( 擁 護 委 員 へ の 協 力 な ど )

第28 条 区は、 擁 護 委 員 の 設 置 の 目 的 を 踏 ま え、 そ の 仕 事 に 協 力 し な け れ ば な り ま せ ん。

2 保 護 者、 区 民、 事 業 者 な ど は、 擁 護 委 員 の 仕 事 に 協 力 す る よう 努 め な け れ ば な り ま せ

ん。

3 区は、 附 属 機 関 と し て の 役 割 を 担 い 活 動 す る 擁 護 委 員 の 独 立 性 を 尊 重 し な け れ ば な

( 相 談 と 申 立 て )

第29 条 次 に 定 め る 者 は、 擁 護 委 員 に、 自 分 の 権 利 へ の 侵 害 に つ い て 相 談 す る こ と や そ の

侵 害 を 取 り 除 く た め の 申 立 て を す る こ と が で き ま す。 た だ、 誰 で あ っ て も、 擁 護 委 員 に、 次

に 定 め る 者 の 権 利 の 侵 害 に つ い て 相 談 す る こ と や そ の 侵 害 を 取 り 除 く た め の 申 立 て を

す る こ と が で き ま す。

( 1 ) 区 内 に 住 所 を 有 す る 子 ども

( 2 ) 区 内 に あ る 事 業 所 で 働 い て い る 子 ども

( 3 ) 区 内 に あ る 学 校、 児 童 福 祉 施 設 な ど に、 通 学、 通 所 や 入 所 し て い る 子 ども

( 4 ) 子 ども に 準 ず る 者 と し て 規 則 で 定 め る 者

( 調 査 と 調 整 )

第30 条 擁 護 委 員 は、 子 ども の 権 利 の 侵 害 を 取 り 除 く た め の 申 立 て に 基 づ き、 た だ、 必 要

に 応 じ て、 子 ども の 権 利 の 侵 害 に つ い て の 調 査 を す る も の と し ま す。 た だ し、 擁 護 委 員 が 特 別

の 事 情 が あ る と 認 め る と き を 除 き、 規 則 で 定 め る 場 合 に お い て は、 調 査 を し な い こ と が で き

ま す。

2 擁 護 委 員 は、 関 係 機 関 な ど に 対 し 調 査 た め に 必 要 な 書 類 を 提 出 す る よう 求 め る

こ と や、 そ の 職 員 な ど に 対 し 調 査 た め に 質 問 す る こ と が で き る も の と し ま す。

3 擁 護 委 員 は、 調 査 の 結 果、 必 要 と 認 め る と き は、 子 ども と 関 係 機 関 な ど の 仲 介 を す

る な ど、 子 ども の 権 利 の 侵 害 を 取 り 除 く た め の 調 整 を す る こ と が で き ま す。

( 要 請 と 意 見 な ど )

第31 条 擁 護 委 員 は、 調 査 や 調 整 の 結 果、 子 ども の 権 利 の 侵 害 を 取 り 除 く た め 必 要 と

2 擁 護 委 員 は、 子 ども の 権 利 の 侵 害 を 防 ぐ た め 必 要 と 認 め る と き は、 関 係 機 関 な ど に 対 し

て そ の た め の 意 見 を 述 べ る こ と が で き ま す。

3 要 請 や 意 見 を 受 け た 区 長 や 教 育 委 員 会 は、 そ の 要 請 や 意 見 を 尊 重 し、 適 切 に 対

応 し な け れ ば な り ま せ ん。

4 要 請 や 意 見 を 受 け た 区 長 と 教 育 委 員 会 以 外 の 関 係 機 関 な ど は、 そ の 要 請 や 意 見 を

5 擁 護 委 員 は、 区 長 や 教 育 委 員 会 に 対 し て 要 請 を し た と き や 意 見 を 述 べ た と き は、 そ の

対 応 に つ い て の 報 告 を 求 め る こ と が で き ま す。

6 擁 護 委 員 は、 必 要 と 認 め る と き は、 要 請、 意 見、 対 応 に つ い て の 報 告 の 内 容 を 公 表

す る こ と が で き ま す。 こ の 場 合 に お い て は、 個 人 情 報 の 保 護 に つ い て 十 分 に 配 慮 し な け

れ ば な り ま せ ん。

7 擁 護 委 員 は、 そ の 協 議 に よ り 要 請 を し、 意 見 を 述 べ、 た だ、 こ の 要 請 や 意 見 の 内 容 を

公 表 す る も の と し ま す。

第32 条 擁 護 委 員 は、 子 ども の 権 利 の 侵 害 を 取 り 除 く た め の 要 請 な ど を し た 後 も、 必 要

に 応 じ て、 関 係 機 関 な ど と 協 力 し な が ら、 そ の 子 ども の 見 守 り な ど の 支 援 を す る こ と が

で き ま す。

かつどう ほうこく こうひょう  
(活 動 の 報 告 と 公 表 )

だい じょう ようごいいん まいとし くちょう きょういくいいんかい かつどう ほうこく ないよう  
第33 条 擁護委員は、毎年、区 長 と 教 育 委員会に活 動 の 報 告 をし、その 内 容 を  
こうひょう  
公 表 するものとします。

ようごいいん しょむ  
(擁護委員の庶務)  
だい じょう ようごいいん しょむ こ わかものぶ おこな  
第34 条 擁護委員の庶務は、子ども・若者部で 行 います。

そうだん ちょうさせんもんいん  
(相 談 ・ 調 査 専 門 員 )  
だい じょう ようごいいん しごと ほさ そうだん ちょうさせんもんいん せつち  
第35 条 擁護委員の仕事を補佐するため、相 談 ・ 調 査 専 門 員 を設置します。

そうだん ちょうさせんもんいん こ こえ き せんもんか こ ほんにん そうだん  
2 相 談 ・ 調 査 専 門 員 は、子どもの声 を聴く専門家として、子ども本 人 などからの 相 談  
おう ひつよう おう ようごいいん ほうこく  
に 応 じ、必 要 に 応 じて擁護委員に報 告 します。

そうだん ちょうさせんもんいん こ けんり かん ふきゅうけいはつかつどう じつし  
3 相 談 ・ 調 査 専 門 員 は、子どもの権利に関する 普 及 啓 発 活 動 を実施します。

ようごいいん じゅん だい じょう きてい そうだん ちょうさせんもんいん てきよう  
4 擁護委員に 準 じて、第27 条 の規定は、相 談 ・ 調 査 専 門 員 に適 用 します。

だい しょう すいしんけいかく すいしんたいせい ひょうかけんしょう  
第6 章 推 進 計 画 ・ 推 進 体 制 ・ 評 価 検 証 など

すいしんけいかく  
(推 進 計 画 )  
だい じょう くちょう こ せいさく すす きほん けいかく い か すいしん

第36 条 区 長 は、子どもについての政 策 を進めていくための基本となる計 画 (以下「推 進  
けいかく つく  
計 画 」)と いいます。) を 作 りま す。

くちょう すいしんけいかく つく とうじしゃ こ くみん いけん い  
2 区 長 は、推 進 計 画 を 作 る ときは、当 事 者 である子どもや区民の意見が生かされるよう  
つと  
努 めなければなりません。

くちょう すいしんけいかく つく すみ こうひょう  
3 区 長 は、推 進 計 画 を 作 ったときは、速やかに 公 表 します。

すいしんたいせい  
(推 進 体 制 )  
だい じょう くちょう こ せいさく けいかくてき すす すいしんたいせい せいび  
第37 条 区 長 は、子どもについての政 策 を計 画 的に進めていくため、推 進 体 制 を整備  
します。

くに とうきょうと きょうりよく  
(国、東 京 都 などの 協 力 )

だい じょう く こ じぶん ゆた そだ かんきょう せいび くに とうきょうと  
第38 条 区は、子どもが自分らしく、豊 かに 育 つための 環 境 を整備するため、国、東 京 都  
きょうりよく もと  
などに 協 力 を求めています。

ひょうかけんしょう  
(評 価 検 証 など)  
だい じょう くちょう こ せいさく こ けんり ほしょう だいさんしゃ  
第39 条 区 長 は、子どもについての政 策 において、子どもの権利を保 障 するため、第 三 者  
きかん ちょうさ ひょうかけんしょう おこな たいせい せいび  
機 関 による 調 査 と 評 価 検 証 を 行 う 体 制 を 整備 します。

くちょう ひょうかけんしょう あ とうじしゃ こ くみん いけん い  
2 区 長 は、評 価 検 証 など に 当 た っ て は、当 事 者 である子どもや区民の意見が生かされる  
つと  
よう 努 めなければなりません。

だい しょう ざっそく  
第7 章 雑 則

い にん  
(委 任 )  
だい じょう じょうれい しこう ひつよう くちょう さだ  
第40 条 この 条 例 を施行するために必 要 なことは、区 長 が 定 めま す。

ふそく  
附 則

じょうれい へいせい ねん がつついたち しこう  
この 条 例 は、平 成 14 年 4 月 1 日 から施行します。

ふそく へいせい ねん がつ かじょうれいだい ごうしょう  
附 則 (平 成 24 年 12 月 10 日 条 例 第 82 号 抄 )  
じょうれいちゅうだい じょう きてい へいせい ねん がつついたち しこう どうじょう  
1 この 条 例 中 第 1 条 の規定は、平 成 25 年 4 月 1 日 から施行します。ただし、同 条  
ちゅうせたがやくこ じょうれいだい しょう つぎ しょう くわ かいせいきてい だい じょう だい  
中 世 田 谷 区 子 ども 条 例 第 2 章 の 次 に 1 章 を 加 え る 改 正 規 定 (第 19 条 から 第 23

じょう かかい ぶぶん かぎ きそく さだ ひ しこう へいせい ねん がつきそく  
条 ま で に 係 る 部 分 に 限 り ま す。) は、規 則 で 定 め る 日 か ら 施 行 し ま す。(平 成 25 年 5 月 規 則

だい ごう どう ねん がつついたち しこう  
第64 号 で、同 25 年 7 月 1 日 から施行)  
ふそく へいせい ねん がつ かじょうれいだい ごう  
附 則 (平 成 26 年 3 月 7 日 条 例 第 14 号 )

じょうれい へいせい ねん がつついたち しこう  
この 条 例 は、平 成 26 年 4 月 1 日 から施行します。

ふそく れいわ ねん がつ かじょうれいだい ごう  
附 則 (令 和 2 年 3 月 4 日 条 例 第 11 号 )

じょうれい れいわ ねん がつついたち しこう  
この 条 例 は、令 和 2 年 4 月 1 日 から施行します。

ふそく れいわ ねん がつ かじょうれいだい ごう  
附 則 (令 和 7 年 3 月 5 日 条 例 第 6 8 号 )

しこうきじつ  
(施 行 期 日 )  
じょうれい れいわ ねん がつついたち しこう

1 この 条 例 は、令 和 7 年 4 月 1 日 から施行します。  
せたがやくちいきほけんふくしすいしんじょうれい いちぶかいせい  
(世 田 谷 区 地 域 保 健 福 祉 推 進 条 例 の 一 部 改 正 )  
せたがやくちいきほけんふくしすいしんじょうれい へいせい ねん がつせたがやくじょうれいだい ごう いちぶ  
2 世 田 谷 区 地 域 保 健 福 祉 推 進 条 例 (平 成 8 年 3 月 世 田 谷 区 条 例 第 7 号 ) の 一 部 を  
つぎ かいせい  
次 の よう に 改 正 す る。

第28条第1項第4号中「世田谷区子ども条例」を「世田谷区子どもの権利条例」に、「第19条」を  
「第29条」に改める。